ＲＣ、鉄骨造建築物中間検査の要点

　建築基準法に基づくＲＣ建築物、Ｓ・ＳＲＣ建築物中間検査を、概ねこの内容に沿って検査すれば、一定の品質が確保されていることを確認できるものとして、当センター検査員の目線を合わせるために作成したもので、工事に関わる皆様と共通した認識を持つべく編集したものです。

梁の通りの確認

柱筋の状況

（一財）宮城県建築住宅センター建築確認部検査課　（令和２年２月版）

目　　次

Ⅰ　共通事項、全体状況の把握
　1、中間検査チェックシート

Ⅱ　基礎配筋検査（ＲＣ、Ｓ）
　1、書類検査
　2、現地検査
　3、鉄骨造の場合

Ⅲ　ＲＣ建築物２階床配筋検査
　1、書類検査
　2、現地検査

Ⅳ　Ｓ建築物２階床配筋検査
　1、書類検査
　2、現地検査

Ⅴ　参考写真

Ⅵ　工事監理報告書（記載例）

1、建築基準法に基づくこの検査は、工事監理者、施工者が確認した事項の**抽出確認検査**であり、全数を確認するものではありません。

2、確認項目の基本は工事監理者から提出された中間検査チェクシート及び行政報告様式によります。

3、一般的な事項、敷地の安全等は「集団規定等の検査方法」をご覧ください。

Ⅰ　共通事項、全体状況の把握

中間検査は、申請書に添付されたチェックリスト及び行政報告のリスト中のわかる範囲を確認します。

1、工事監理報告書の記載内容を確認する。
　　申請書第3面と工事監理・工事状況報告書（チェックリスト）です。
2、設計変更の有無を確認する。
　　検査前に申請書第3面の確認とその他の有無を聞き取りします。
3、工事現場における建築確認表示板を確認する。
　　確認の表示と鉄骨の場合は鉄骨工場の表示を確認する。

4、工事現場における設計図書等の備え付けを確認する。
　　1号特建では現場への備付けが義務です。
5、全体工程を確認する。
　　（ex:ＲＣ造：コン強度発現上、無理な工程になっていないか。）
6、仮設計画書、土工事施工計画書を確認する。

7、特記仕様書を良く読んで、適用基準等を把握する。

8、施工写真を確認する。

Ⅰ　ＲＣ造の中間検査　第１回特定工程　（基礎）

【ＲＣ造】中間検査ﾁｪｯｸｼｰﾄ

※鉄骨造基礎の検査もほぼ同じです。

工事監理･工事状況　報告書

部位	検査項目	監理者確認		検　査　内　容		センター審査欄 ※ 検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	ﾁｪｯｸ欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
敷地等	敷地	/	□	道路幅員･接道長		Ａ　・　Ｂ
			□	確認表示板の設置		Ａ
			□	確認済証の図書の備え		Ａ　・　Ｃ
			□	建築物の道路･敷地境界線からの離れ及び敷地形状		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	高さ1.8m以上の仮囲い		Ａ
			□	落下物に対する防護		Ａ
			□	山留め		Ａ　・　Ｃ
全体		/	□	基礎、柱、はり、壁、階段、スラブ等位置の確認		Ａ　・　Ｃ
			□	かぶり厚さの確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	鉄筋の材質の確認		Ａ　・　Ｃ
地盤	支持地盤	/	□	支持地盤の位置、種類、地耐力等の確認		Ａ　・　Ｃ
基礎	種類	/	□	基礎の種類、杭の工法、長さ、径、偏心による補強等		Ａ　・　Ｃ
	ベース	/	□	基礎寸法、主筋径、本数、主筋位置、杭頭補強筋		Ａ　・　Ｃ
	地中ばり	/	□	断面寸法、主筋径、本数、主筋位置		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	定着方法、継手(位置、長さ)		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	あばら筋の位置、径、間隔形状等		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	あばら筋のフック形状、結束状況		Ａ　・　Ｃ
	柱	/	□	主筋径、本数、主筋位置		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	定着(基礎部分)		Ａ　・　Ｃ
			□	帯筋の位置、径、間隔形状等		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	帯筋のフック形状、結束状況		Ａ　・　Ｃ

Ⅰ　ＲＣ造の中間検査　第１回特定工程　（基礎）

部位	検査項目	監理者確認		検査内容		センター審査欄 ※検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	チェック欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
スラブ	スラブ筋	/	□	スラブ厚寸法、鉄筋のピッチと径		A・B・C
			□	主筋配置と支持条件		A　・　C
	定着・重ね継手	/	□	定着長さと方法（はり定着、隣接スラブ定着、段差スラブ定着）		A・B・C
			□	継手の位置と長さ		A・B・C
	補強筋等	/	□	床スラブの出入隅部の補強		A　・　C
			□	開口補強筋		A　・　C
			□	階段部配筋と補強筋		A　・　C
その他	補強筋	/	□	設備配管の位置		A　・　C
	ガス圧接継手	/	□	継手位置、隣接主筋圧接位置のずらし		A・B・C
			□	圧接形状		A　・　C
			□	強度確認等		C
	溶接継手	/	□	継手位置、隣接主筋溶接位置のずらし		A　・　C
			□	溶接方法		A　・　C
			□	強度確認等		C
	機械式継手	/	□	継手位置、隣接主筋溶接位置のずらし		A・B・C
			□	強度確認等		C
	型枠等	/	□	型枠状況、清掃状況等確認		A　・　C
確認図書		/	□	杭工事施工結果報告書		C
		/	□	コンクリート工事施工計画報告書		C
		/	□	鉄筋ミルシート		C
		/	□	圧接抜取り引張り試験（又は、超音波探傷試験）結果		C
		/	□	仮設施工計画書および土工事施工計画書		C
工事監理者報告欄					※センター検査員検査結果等記入欄	

※確認済番号	※建築主（施工者）	※検査実施日	※検査員名	
第　　号		令和　年　月　日		
		令和　年　月　日		

（註）工事監理者は、監理者確認チェック欄に確認図書と照合していることを確認して記入して下さい。
工事監理者は、特記すべきことがあれば、工事監理者欄に記載して下さい。
※欄は、宮城県建築住宅センター　検査員が記入のこと。

Ⅰ　ＲＣ造の中間検査　第２回特定工程　（２階床）

【ＲＣ造】中間検査ﾁｪｯｸｼｰﾄ

部位	検査項目	監理者確認		検　査　内　容		センター審査欄 ※ 検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	ﾁｪｯｸ欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
全体	共通	/	□	柱、はり、壁、階段、スラブ位置確認		Ａ　・　Ｃ
			□	かぶり厚さ確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	鉄筋材質の確認		Ａ　・　Ｃ
柱	１階主筋	/	□	柱径寸法、主筋径、本数、配置（方向別主筋本数）		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	2段筋の位置、間隔		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	2階止まりの柱主筋の定着、2階で継ぐ柱主筋の状況確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	柱の増打ち部分、１－2階で柱寸法が異なる場合の柱絞り位置等の確認		Ａ　・　Ｃ
	１階帯筋	/	□	鉄筋径、間隔、本数（副帯筋共）及び形状の確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	仕口部分の帯筋の配置確認		Ａ　・　Ｃ
			□	帯筋のフック形状、あそび及び結束の確認		Ａ　・　Ｃ
大ばり	2階はり主　筋	/	□	はり断面寸法、主筋径、本数、位置の確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	中吊り筋の間隔確保、長さ確認		Ａ　・　Ｃ
	定着・継手	/	□	はり筋の定着長、位置確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	重ね継手の位置と長さ確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	はり筋出隅部の末端フック確認		Ａ　・　Ｃ
	あばら筋	/	□	あばら筋の径、本数とピッチ確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	第1あばら筋位置、小ばり交差部のあばら筋確認		Ａ　・　Ｃ
			□	あばら筋のフック形状、あそび及び結束の確認		Ａ　・　Ｃ
	補強筋	/	□	貫通孔位置、補強方法の確認		Ａ　・　Ｃ
小ばり・片持ち梁	小ばり・片持ばり	/	□	片持ばり主筋の定着、あばら筋位置確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
			□	小ばり配筋の位置と定着確認		Ａ・Ｂ・Ｃ
	補強筋等	/	□	貫通孔位置、補強方法の確認		Ａ　・　Ｃ

Ⅰ　ＲＣ造の中間検査　第２回特定工程　（２階床）

【ＲＣ造】中間検査ﾁｪｯｸｼｰﾄ

部位	検査項目	監理者確認		検査内容		センター審査欄 ※ 検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	ﾁｪｯｸ欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
スラブ	スラブ筋	/	□	スラブ厚寸法、鉄筋ピッチと径の確認		A・B・C
			□	主筋配筋（短辺・長辺）と支持条件の確認		A　・　C
	定着・継手	/	□	定着長さと定着位置（はり定着、隣接スラブ定着、段差スラブ定着）		A・B・C
			□	継手の位置、長さ		A・B・C
	補強筋	/	□	開口部補強筋確認		A　・　C
			□	設備配管による開口補強		A　・　C
壁	壁筋	/	□	壁厚寸法、鉄筋のピッチと径		A・B・C
	定着・継手	/	□	定着位置確認　重ね継手位置の確認		A・B・C
	補強筋	/	□	開口補強筋配筋状況確認		A　・　C
			□	スリット（部分、完全）の位置、形状及び配筋確認		A・B・C
その他	ガス圧接	/	□	継手位置、隣接主筋圧接位置のずらし		A　・　C
			□	圧接形状		A　・　C
			□	強度確認等		C
	溶接継手	/	□	継手位置、隣接主筋溶接位置のずらし		A・B・C
			□	溶接方法		A　・　C
			□	強度確認等		C
	機械式継手	/	□	継手位置、隣接主筋溶接位置のずらし		A・B・C
			□	強度確認等		C
	型枠	/	□	型枠及び支柱の締付け、清掃状態		A　・　C
	既存ｺﾝｸﾘｰﾄ打設部分の状況確認	/	□	コンクリート打設後の養生		A　・　C
			□	コンクリートの調合及び圧縮強度の確認		A　・　C
			□	型枠存置期間の確認		A　・　C
確認図書		/	□	杭工事施工結果報告書		C
		/	□	コンクリート工事施工計画報告書		C
		/	□	鉄筋ミルシート		C
		/	□	圧接抜取り引張り試験（又は、超音波探傷試験）結果		C
		/	□	仮設施工計画書および土工事施工計画書		C

Ⅰ　S・SRC造の中間検査　第2回特定工程　（2階床）

部位	検査項目	監理者確認		検査内容		センター審査欄 ※ 検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	チェック欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
報告書審査による確認事項	鉄骨製作工場の選定	/	□	建築物の規模等の条件に見合ったグレードであることが原則である		C
	材料の品質確認	/	□	鋼材、高力ボルトセット、溶接材料の規格・品質等の確認		C
	製作要領署の確認	/	□	製作要領書が設計で確定した要求性能を実現するために必要な内容となっているか確認		C
	溶接技能者の資格	/	□	必要な資格を保有していることを確認		C
	溶接方法の確認	/	□	設計条件に見合った溶接方法の確認		C
	組立検査	/	□	開先角度、ルート面、ルートギャップ、くい違い等の精度		C
	溶接条件	/	□	設計条件及び溶接方法に見合った溶接条件の確認		C
	寸法精度等の確認	/	□	部材の寸法精度測定 高力ボルトの接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径・ピッチ		C
	溶接接合部の品質	/	□	外観検査及び超音波探傷検査		C
現場検査・柱はり接合部等	柱脚部	/	□	柱脚接合工法の確認（認定工法　　）		A・C
			□	アンカーボルトの保持・埋込方法　ベースプレートの材質・形状・板厚		A・C
			□	アンカーボルトの材質・径・本数及び配置とナットの高さ		A・C
			□	アンカーボルトの締付状態		A・C
			□	スタッドボルトの径・本数・配置		A・C
	柱・はり	/	□	柱、はり部材位置、寸法確認		A・B・C
	現場および工場溶接部の外観形状等	/	□	現場・工場溶接部位の確認		A・C
			□	1階柱・2階はりの溶接継目の種類（突合せ・隅肉）		A・C
			□	柱・はり仕口ダイヤフラムとフランジのずれ		A・C
			□	突合せ継手の食い違い		A・C
			□	アンダーカット		A・C
			□	溶接部割れ		A・C
			□	その他溶接部外観・形状		A・C

Ⅰ　S・SRC造の中間検査　第2回特定工程　（2階床）

部位	検査項目	監理者確認		検査内容		センター審査欄 ※ 検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告
		月日	ﾁｪｯｸ欄	工事監理者確認項目	センター検査員検査項目	
現場検査・柱はり接合部等	HTB接合部	/	□	トルシア型ボルト現場受入検査（トルク計数値・導入張力確認試験）		C
			□	HTBの径・本数・スプライス数・ピッチ・縁あき寸法の確認		A ・ C
			□	締付け状態の確認（肌すき、ピンテール破断、マーキングの状態）		A ・ C
			□	JIS六角ボルト締付機器の調整、現場受入検査（導入張力確認試験）		C
	小ばり・補鋼材	/	□	小ばり・補鋼材位置・寸法確認		A ・ C
			□	小ばり・補鋼材の接合部		A ・ C
	ブレース接合部	/	□	ブレース形状、寸法、位置		A ・ C
			□	接合部		A ・ C
床接合部等	2階床	/	□	（ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ合成床版の場合 ） ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ厚、はりとの溶接		A ・ C
			□	（ ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ+ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄの場合 ） スタッドボルト径、長さ、ピッチ、デッキプレート厚さ		A・B・C
			□	（ ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ合成床版の場合 ） スタッドボルト径、長さ、ピッチ		A・B・C
			□	スラブ厚寸法、鉄筋ピッチと径		A ・ C
			□	主筋配置（短辺・長辺）と支持条件		A ・ C
			□	定着長さと定着位置		A・B・C
			□	継手の位置長さ		A・B・C
			□	開口部補強筋		A ・ C
その他	補強筋	/	□	設備配管の位置		A ・ C
	ガス圧接継手	/	□	継手位置のずらし		A・B・C
			□	圧接形状		A ・ C
			□	強度確認等		A ・ C
	型枠等	/	□	型枠状況、清掃状況等確認		A ・ C

Ⅱ　基礎配筋検査（ＲＣ）

１．書類検査

①　支持地盤、地耐力の確認

- 構造図又は構造計算書の地耐力を確認、現地で以下の書類と照合する。
- ボーリングデータ、ＳＷＳ試験データは必ず確認する。
- **直接基礎の場合**
  基礎底盤が接する個所の**写真又は土質サンプル**で、その土質から支持力を確認し、工事監理者が確認したことも確認する。

②　杭、地盤改良工事施工報告書の確認

- 工法、本数、高さ、芯ずれの確認
  - 芯ずれの場合、距離に応じて基礎補強の確認
  - 高止まり、低止まりの場合の処置方法の確認
  - **継杭の場合工法の確認、設計図書と相違の場合は軽変等となる。**
  - 改良体の強度を確認する。
  - 固化剤の配分量、施工報告書、施工写真を確認する。

③　表層改良、ラップルコンクリートの場合

- 改良体の厚さ及び強度、固化剤の配分量、施工報告書を確認する。
- ラップルの場合は、支持地盤までしかるべきコンクリートが打たれていることの確認と強度を確認する。

Ⅱ　基礎配筋検査（ＲＣ）

１．書類検査

④　鋼材のミルシート、メタルタグを確認する。
（特に**高強度鉄筋**は注意すること。）

⑤　コンクリートの配合計画書を見て、設計図書との整合、温度補正を確認する。
※コンクリート工場はＪＩＳ工場か。ＪＩＳ規格に適合しているか。

⑥　鉄筋の圧接状況を確認する。（超音波探傷、引張試験、芯ずれ等の状況）

⑦　配筋状況の写真を確認する。　チェックシート参照
（ベース、地中梁、柱等を数台確認する。）

⑧　スリーブ図を見て、補強方法、状況、計算書の有無を確認する。

⑨　主筋の定着板方式、樹脂注入継手、カップラージョイント等機械式継ぎ手の場合は**認定書**を確認する。

Ⅱ　基礎配筋検査（ＲＣ）

１．現地検査

①　配置を確認する。（敷地境界、境界標、離れ寸法の確認）
　　配置図との整合の確認

②　道路状況、接道状況を確認する。

③　敷地の状況を確認する。（隣地等との高低差、土留、法面の有無等）
　　配置図との整合の確認
　　※仮囲い等で計測不可の場合は次回検査とする。

④　建物の**Ｘ方向、Ｙ方向**を確認し、配筋方向、スパン寸法も確認する。

⑤　鉄筋のロールマークを見てミルシート、メタルタグとの整合を確認する。

⑥　耐圧盤、基礎　（耐圧盤、主要な基礎を数台確認する。）
　　基礎の幅、長さ、高さ、偏芯を数か所確認する。
　　鉄筋の径、ピッチ、定着長さを確認する。
　　主筋位置、かぶり厚さを確認する。

⑦　地中梁（大梁、小梁、片持梁）
　　主筋、主筋位置、スターラップの配筋、サイズ、ピッチ、かぶり厚さ
　　地中梁等の通り、スペーサーの設置状況の状況を数台確認する。

Ⅱ　基礎配筋検査（ＲＣ）

１．現地検査

⑦　地中梁（続き）

スリーブ補強を確認する。特に既製品は**孔ぎわ補強筋の数**は要注意

柱際等への設置は、認定の範囲であることを確認する。

※　主筋の位置（梁端から鉄筋中心までの距離）が最も重要になってきます。
1段目に設計図通りの本数が並ばないから勝手に２段筋、３段筋にして並べ直すと構造耐力が低下して計画変更になる可能性が高くなるため要注意です。

※数カ所の確認で足りるが、不審な点が見られた場合は追加確認する。
ex：梁主筋の上にかぶり厚さ不足で排水管が設置されている。

⑧　柱主筋、フープの配筋、サイズ、ピッチを数台確認する。

かぶり厚さ、スペーサーの設置状況を確認する。

※鉄骨造の柱の場合

柱脚の構造方法を確認する。

アンカーボルトの材質、径、本数、長さを書類、現地で確認する。
（ＡＢＳ、ＡＢＲの種別に注意）

認定工法の場合は認定書も確認する。（ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ、ﾊｲﾍﾞｰｽ等）

Ⅲ　ＲＣ造２階床配筋検査

１．書類検査

①　基礎配筋検査時に確認できなかった書類を確認する。
　　（ミルシート、鉄筋圧接報告書、杭施工報告書等が時々ある。）

②　鋼材のミルシートを確認する。（特に高強度鉄筋は注意すること。）
　　基礎配筋検査時に終えている場合は不要

③　基礎等、既打設コンクリートの強度を確認する。
　　公的機関でない場合は、監督員等が立ち会った写真も確認する。
　　コンクリートの配合計画書は基礎検査時に終えている場合は不要。

④　鉄筋の圧接状況を確認する。（超音波探傷、引張試験、芯ずれ等の状況）

⑤　配筋状況の写真を確認する。（梁、柱、スラブ、壁等を数台確認する。）

⑥　スリーブ図を見て、位置、補強方法、状況、計算書の有無を確認する。
　　既製品は計算書を確認する。（径が大きい場合はstrの追加補強がある。）

⑦　壁開口部の補強筋、スリットを写真で確認する。

Ⅲ　ＲＣ造２階床配筋検査

２．現地検査

①　基礎配筋検査時に確認できなかった配置図との整合を確認する。
確認できない場合は、完了検査時に見る。

②　建物のＸ方向、Ｙ方向を確認し、柱梁スラブの配置、配筋方向、
スパン寸法も確認する。

③　鉄筋のロールマークを見てミルシート、メタルタグとの整合を確認する。

④　梁（大梁、小梁、片持梁）

- 主筋、スターラップの配筋、サイズ、ピッチ、フックの形状を数台確認する。
- 梁等の通りとかぶり厚さ、スペーサーの設置状況を確認する。
  ※数カ所の確認で足りるが、不審な点が見られた場合は追加確認する。
- 通りの悪さ、かぶり不足等は修正を指示する。
- 水平スリットを確認する。

梁のかぶり厚さが大きい場合はひび割れ防止筋が必要となる。
入れる場合は、特記仕様書、標準仕様書で補強の仕様を確認する。

※引張鉄筋の梁上端・下端からの位置は非常に重要です。

Ⅲ　ＲＣ造２階床配筋検査

２．現地検査

⑤　柱

- 主筋、フープの配筋、サイズ、ピッチ、フックの形状を数台確認する。
- かぶり厚さ、スペーサーの設置状況を確認する。
- 垂直スリットを確認する。

※主筋は、X,Y方向本数、寄筋、躯体面から鉄筋中心までの距離を確認する。

⑥　スラブ、片持スラブ

- 主筋、配力筋のサイズ、ピッチ、スラブ厚さを数台確認する。

※特に片持スラブの配筋、持ち出し部のスラブ厚さは厳密に見る。
（上端筋の型枠底からの鉄筋中心までの高さ、スラブ厚さは最も重要。）

- **電線管等設備配管**のかぶり厚さ、**管どうしの離れ**、管サイズに注意
状況に応じて、補強筋等を入れる。

⑦　壁、階段

- スリットがある場合、スリットを確認する。
- 開口部の開口補強筋を見る。

C.　RC造２階床配筋検査

２．現地検査

⑧その他

- 打設済みコンのジャンカ等の有無を確認する。
- 梁下サポートの設置状況を確認する。
- 型枠の清掃状況、通りの状況を確認する。
- 支保工の状況を確認する。

- 打ち継ぎがある場合はその方法確認
  打設済みのコンクリートがある場合は、**打ち継ぎ部の清掃状況**を見る。
  特に、流れ出たコンクリートの処理方法は必ず聞く。

※参考

※ガス圧接標準仕様書では、鉄骨同様に建物内の非破壊検査の超音波探傷試験になっています。引張試験は建物から出てしまう検査のため推奨していません。
基準法上は、どちらでもよいとしていますが、矛盾しています。

※土に接する場合の柱主筋のかぶり厚さについて、地上部で4cmのかぶりの場合、土に接する部分が増し打ちとなっていないと5cm以上のかぶりが確保されないので、注意が必要です。

Ⅳ　S・SRC造２階床配筋検査

工事工程により上階の床はコンクリートを打設している場合があるが、検査は2階床の工程完了時であり、それ以外の個所は写真により確認する。

検査対象は当該建物すべてとなります。
（特定工程が２階ということです。）

１．書類検査

①　選定した加工工場の確認。（設計図書で指定された指定グレードの確認）
　現場の鉄骨製作業者の表示も確認！
　設計図書で指定なしの場合は、建物の規模や難易度に応じた工場になっているか。

②　鋼材のミルシートを確認する。（特に溶接用鋼材（**SN材**）は注意すること。）
- 柱、梁　・　アンカーボルト　・　スプライスプレート　・ブレース
- 高力ボルト　・　ダイアフラム（ＳＮ４９０Ｂ、Ｃ種が多い）等

　ダイアフラム等は加工場で写真撮影している場合があり、写真にＳＮ材を写していることがあるので、それでも可。
　ノンダイヤの場合は、認定書を確認する。

Ⅳ　S・SRC造２階床配筋検査

１．書類検査

※　SN材は建築構造用圧延鋼材でSSやSMに比べて、溶接性はもちろんのこと、板厚のマイナス側を認めない規制や降伏比制限があり、構造設計を行っている性能に近い材料になっています。
　特にSNをSS、SMに変更した場合問題になるのは、H-390X300やH-440x300等で幅厚比制限が異なるため、場合によっては、NGとなり基準法違反になる可能性があります。

③　鋼材の溶接状況を超音波探傷試験報告書等により確認する。
　一般的に、自主検査100%、第三者30%、現場溶接個所は１００%

④　加工状況、施工状況の写真を確認、又は聞き取りする。
（柱、梁、ブレース、斜材の状況）

- 梁柱等仕口の組立精度の確認（開先角度、ルートギャップ等）
- 部材寸法の確認、建て方精度の写真確認、聞き取りを行う。
（製品検査報告書、建方検査報告書）

⑤　梁スリーブ図を見て、補強方法、大きさ、スリーブ間の距離等を確認する。（特記仕様書との整合）
　既製品の場合は補強計算書を確認する。在来型は特記仕様書の補強要領との整合を確認。

Ⅳ　S・SRC造２階床配筋検査

２．書類検査
⑥　基礎等、既打設コンクリートの強度を確認する。
⑦　柱ベースモルタルの施工状況、種類を確認する。

２．現地検査
①　基礎配筋検査時に確認できなかった配置図との整合状況を確認。
確認できない場合は、完了検査時に見る。

②　各部分の高さが立面図等と整合しているか確認する。
道路斜線、北側斜線制限、隣地斜線制限も確認する。
※鉄骨造の２Ｆ床検査時には建方は完了している場合が多い。

③　建物のＸ方向、Ｙ方向を確認し、柱梁スラブの配置、配筋方向、スパン寸法、部材寸法を確認する。

④　高力ボルトの接合確認、ピンテール破断確認、マーキング確認、母材とスプライスプレートの密着確認。

Ⅳ　S・SRC造２階床配筋検査

２．現地検査

⑤　スリーブ図を見て、補強方法、状況、計算書の有無を確認する。
　　構造標準図の記載内容との整合を確認するか、計算書を確認する。
　　既製品の貫通補強は、認定書・評定書と計算書を確認する

⑥　柱ベースモルタルの充填状況を確認する。

⑦　基礎等、打設済みコンの状態の確認を行う。（亀裂等の有無）

⑧　床、特にキャンテ床の開口補強確認。（避難ハッチ、設備配管等）

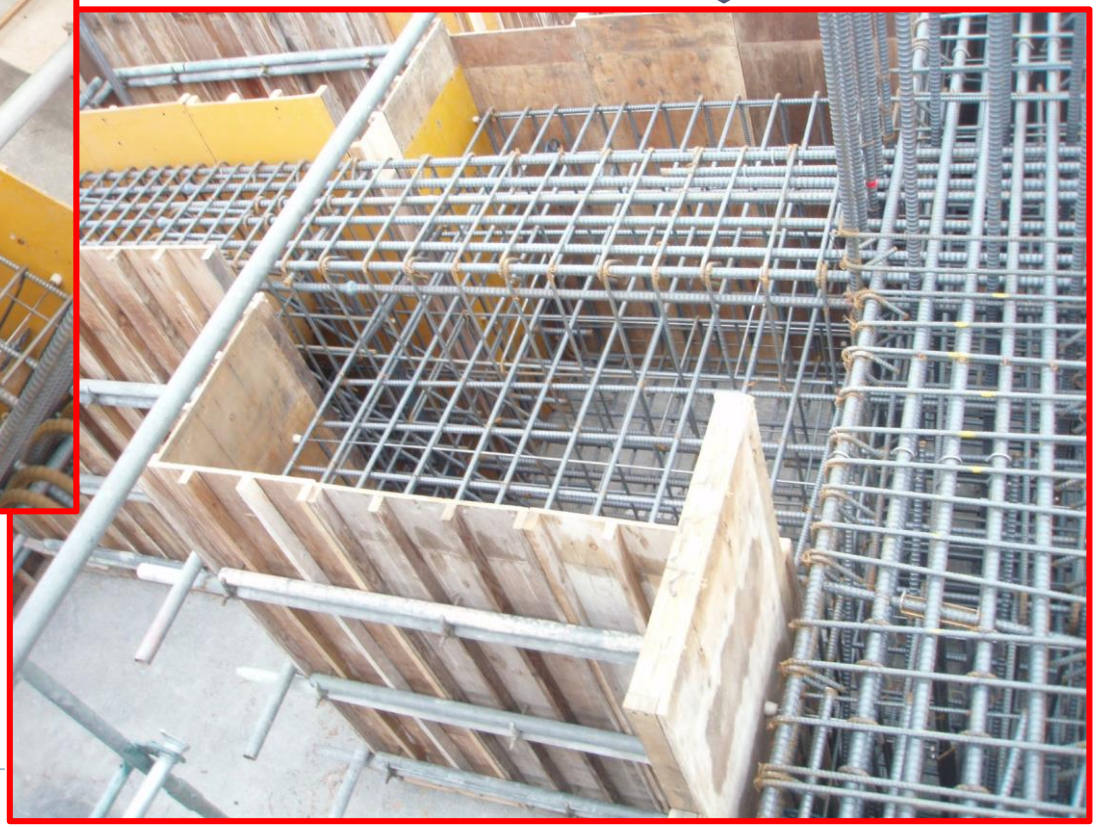
⑨　床に耐火補強筋、ひび割れ防止補強筋がある場合の確認。

⑩　スタッドボルトは打撃試験を行い指定の角度で破断の有無を確認する。

⑪　仮囲い、落下防止措置等を確認する。
　　（施行令７章の８工事現場の危害防止の規定あり。）

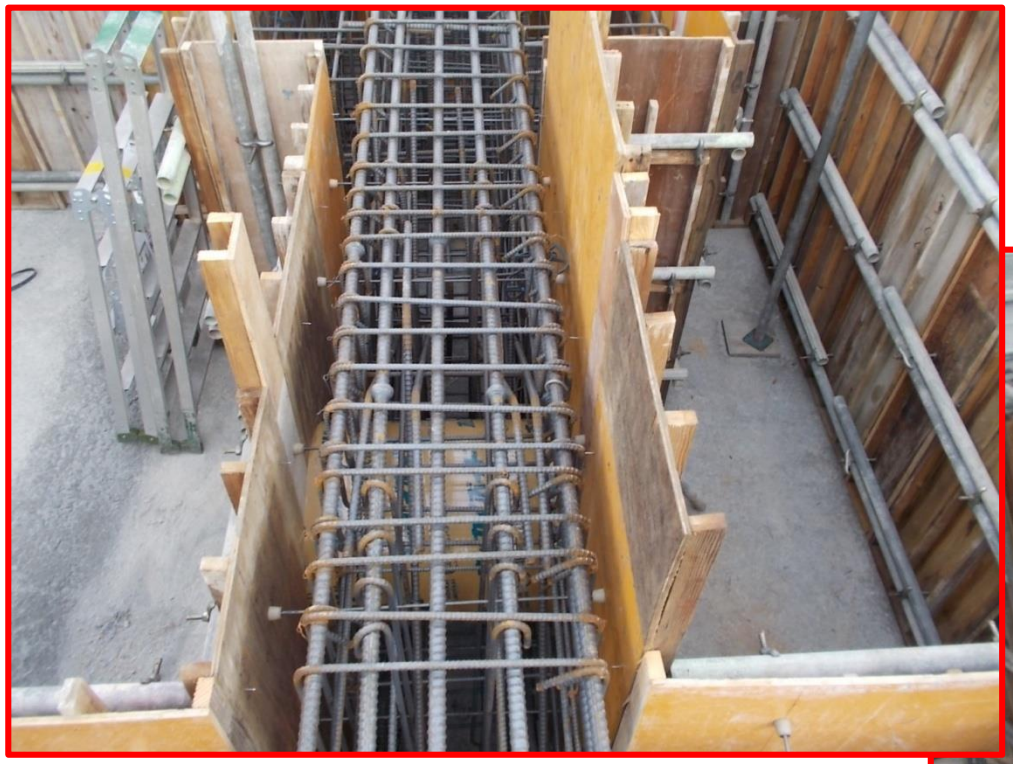
Ⅴ　参考写真

基礎の形状、基礎梁の寸法確認等



E. 参考写真

基礎の寸法確認等



基礎梁の寸法確認等

Ⅴ　参考写真

梁スリーブ補強ありと
なしの状況

スリーブ補強の状況既製品
孔際の補強筋が見えない。

Ⅴ　参考写真

梁スリーブ補強の状況
既製品が入っている
間隔に注意が必要

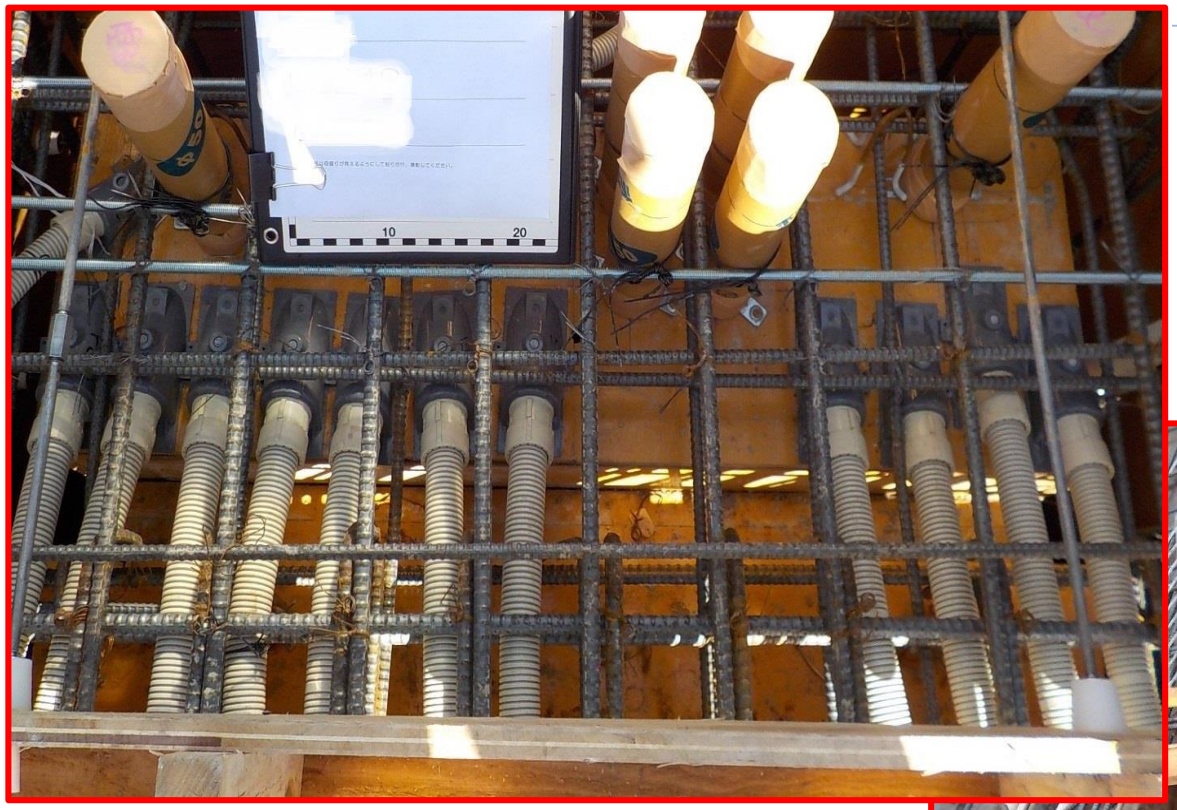
人通口とスリーブの状況
補強は在来型

Ⅴ　参考写真

基礎梁のスリーブ補強
状況、寸法確認

小梁組み立て中
配筋状況がよくわかる。

Ⅴ　参考写真



スラブの状況
電線管、設備配管の状況
少し込み合っている割れ
防止等の補強が必要

スラブの状況
ダメ穴補強の状況
十分な補強がされている

Ⅴ　参考写真

スラブの状況
電線管がかなり込み入っている
補強筋を入れるか電線管をバラす必要がある

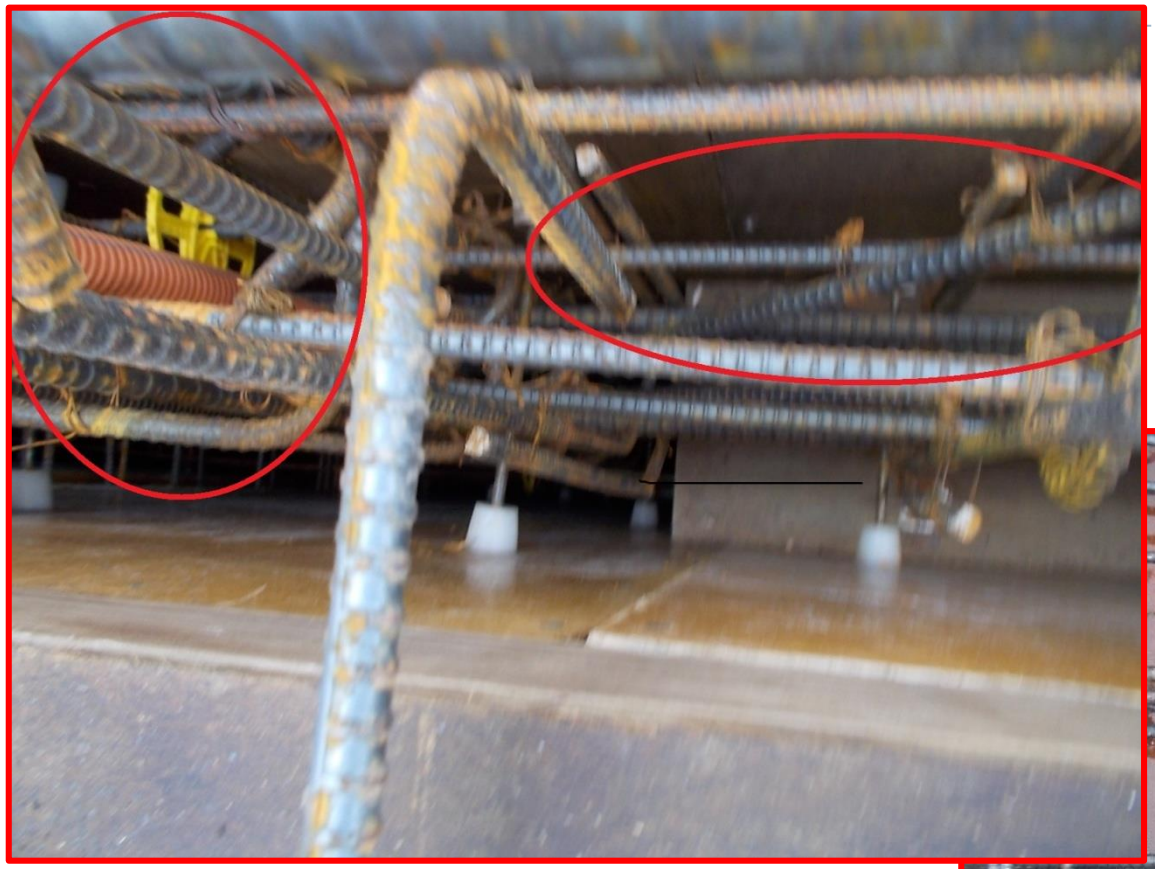
スラブ最上階の補強状況
出隅部の補強

Ⅴ　参考写真

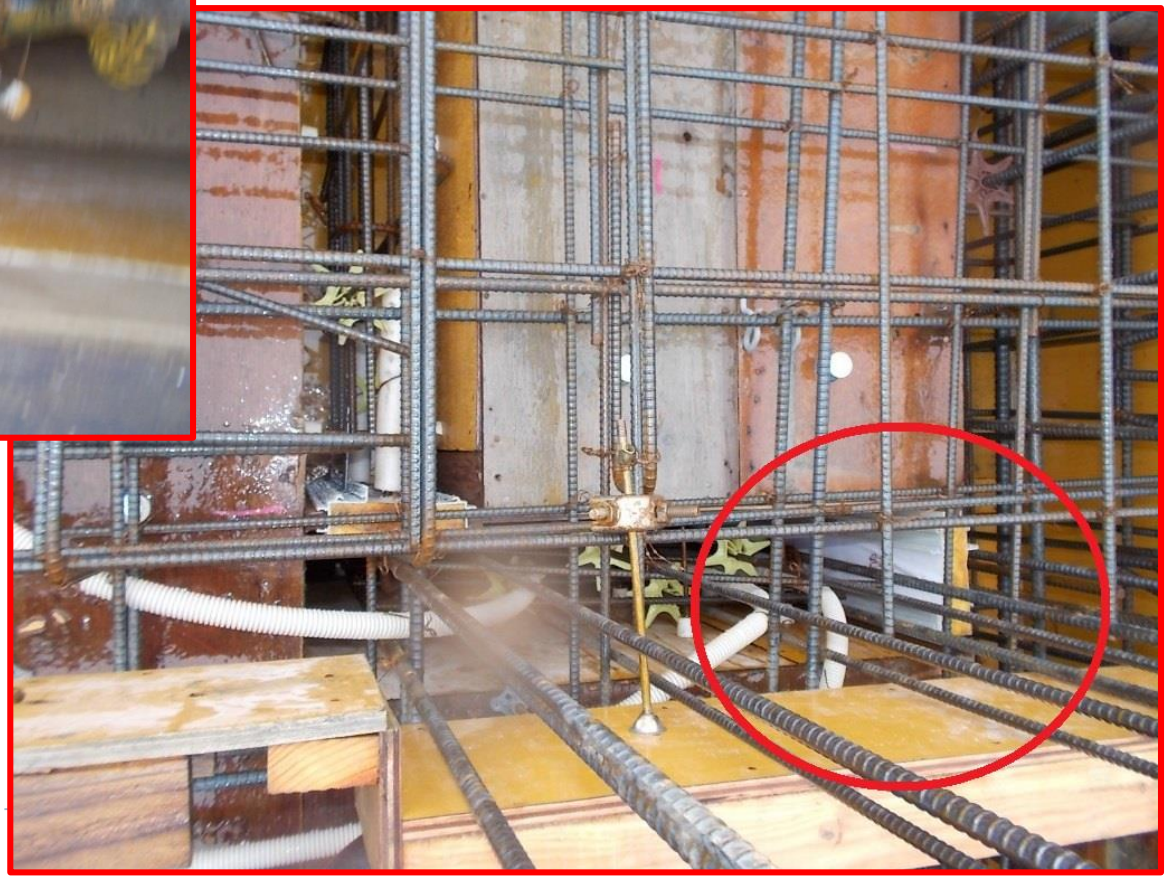
コンクリート打ち継ぎ
部の状況
まだ補修前と思われる

スラブの開口状況
設備配管と電線管

Ⅴ　参考写真



↓　柱際の壁スリット

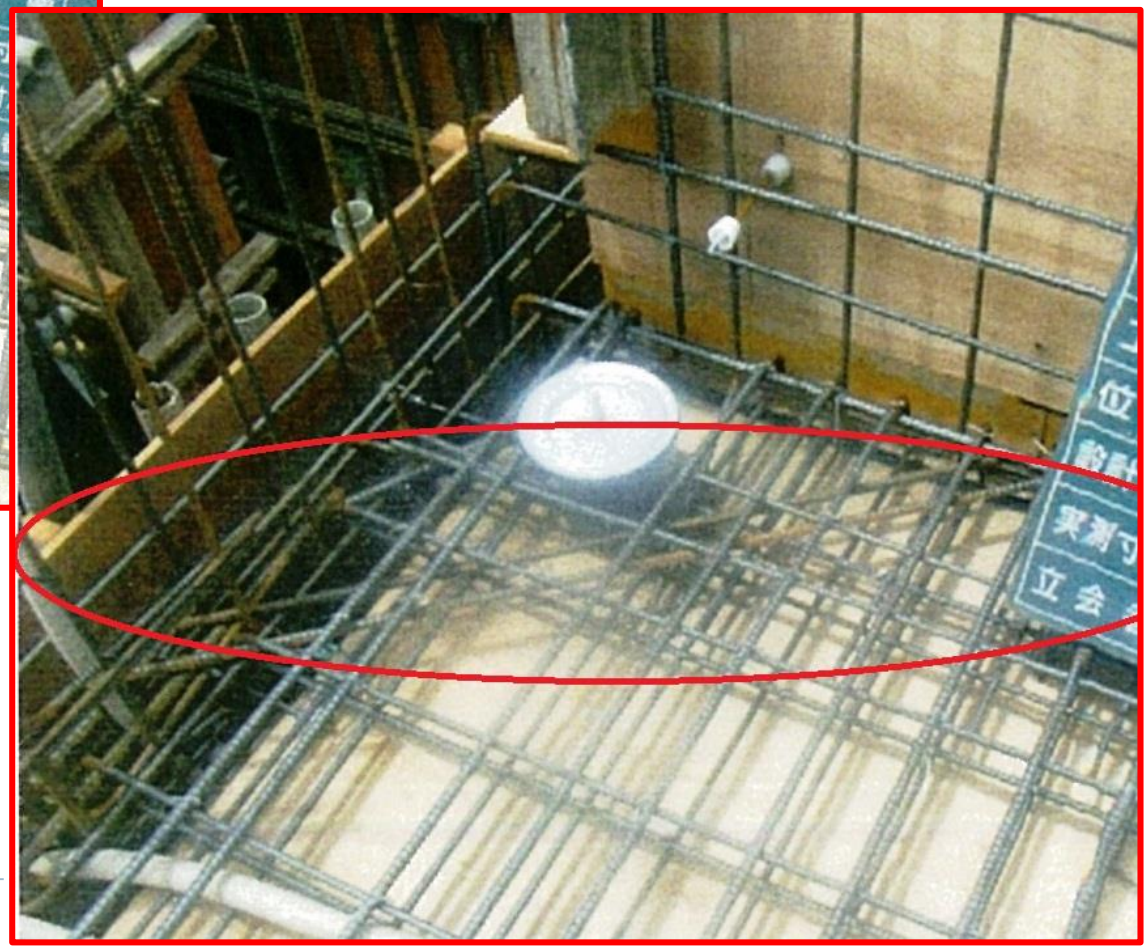


↑　壁の開口補強状況
縦筋と斜筋が見える

Ⅴ　参考写真

ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ廻り
開口補強　前

ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ廻り
開口補強　後
スラブに斜め筋が入った

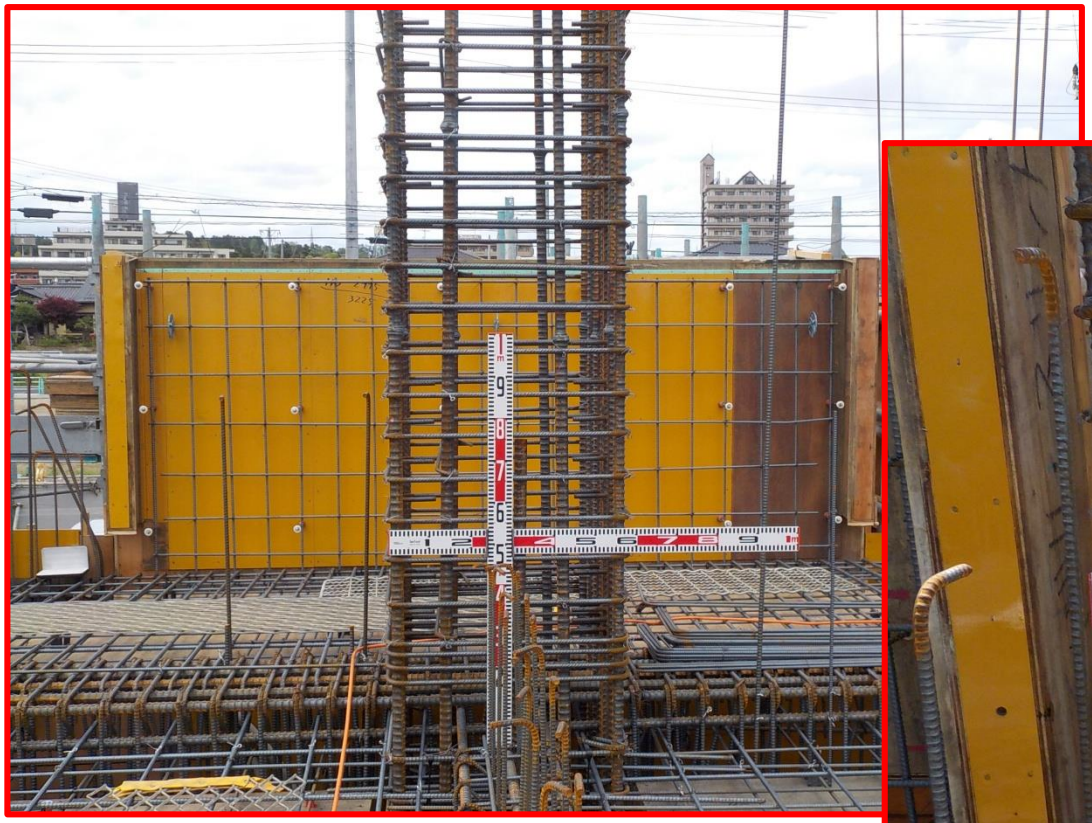


Ⅴ　参考写真

柱筋、梁接合部の状況

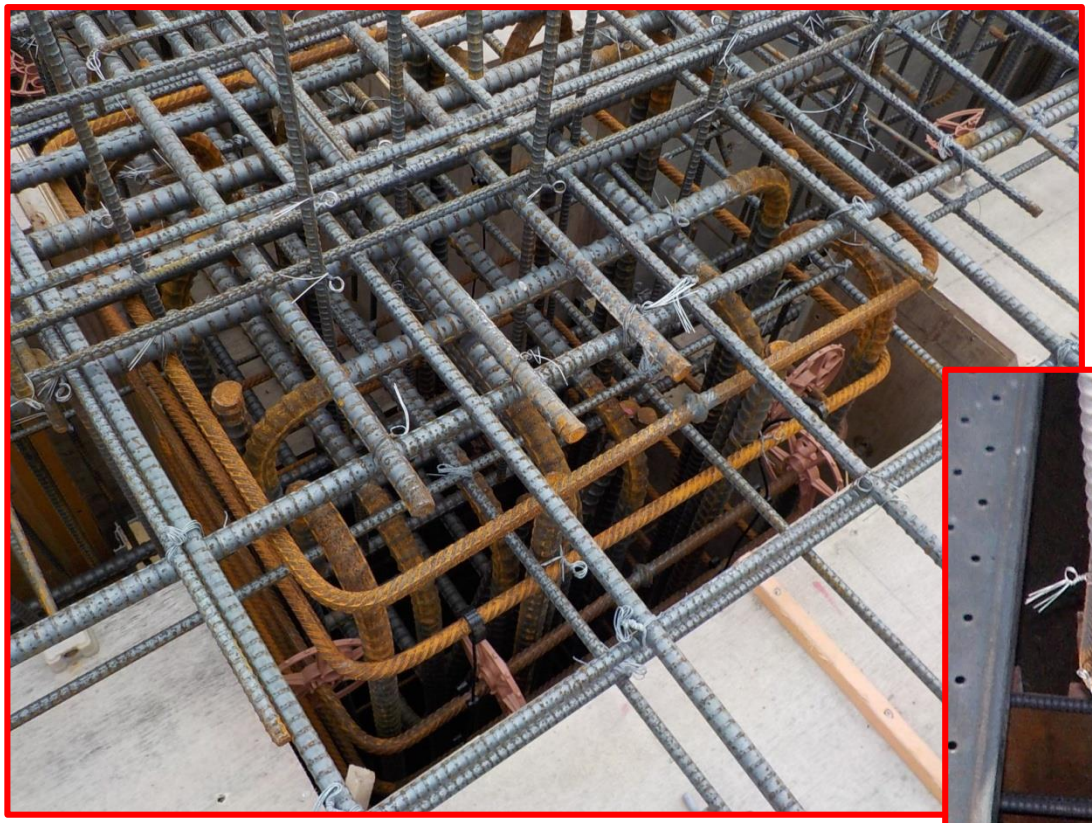
打ち継ぎ箇所、止め枠の状況

Ⅴ　参考写真



柱サイズの計測

Ⅴ　参考写真

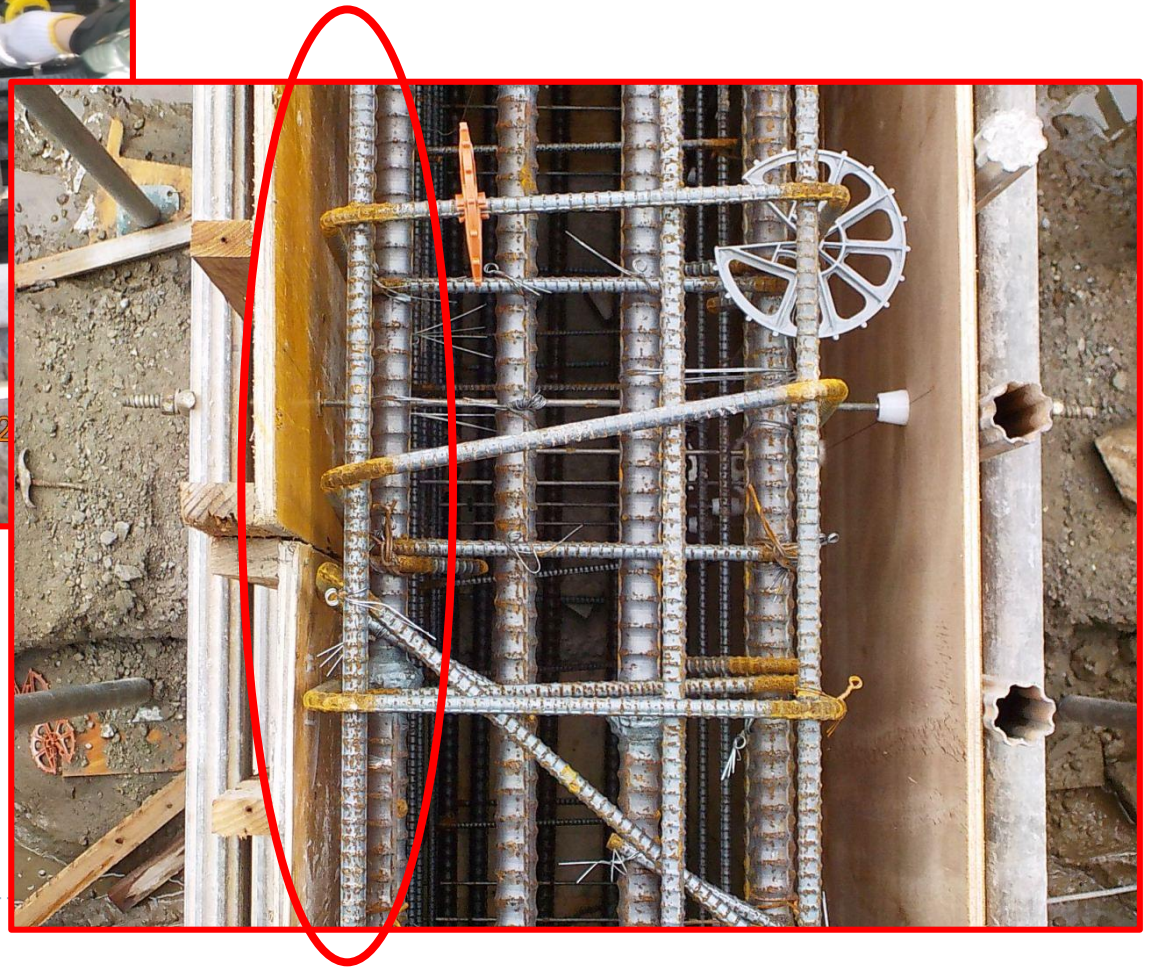


柱頂部の状況
隅の主筋にフックがある

柱サイズの計測と
中子筋の確認

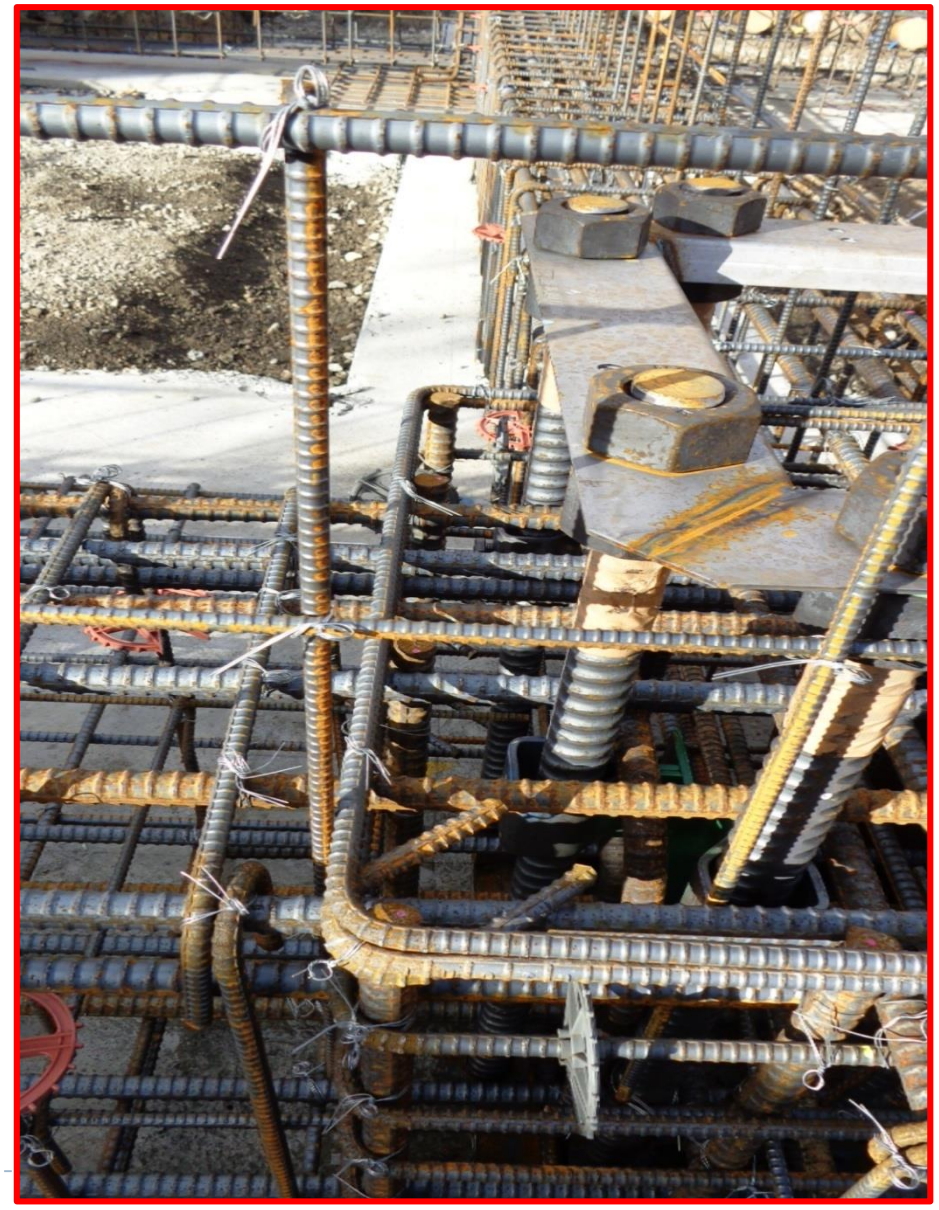
Ⅴ　参考写真

梁幅とＳｔｒの計測



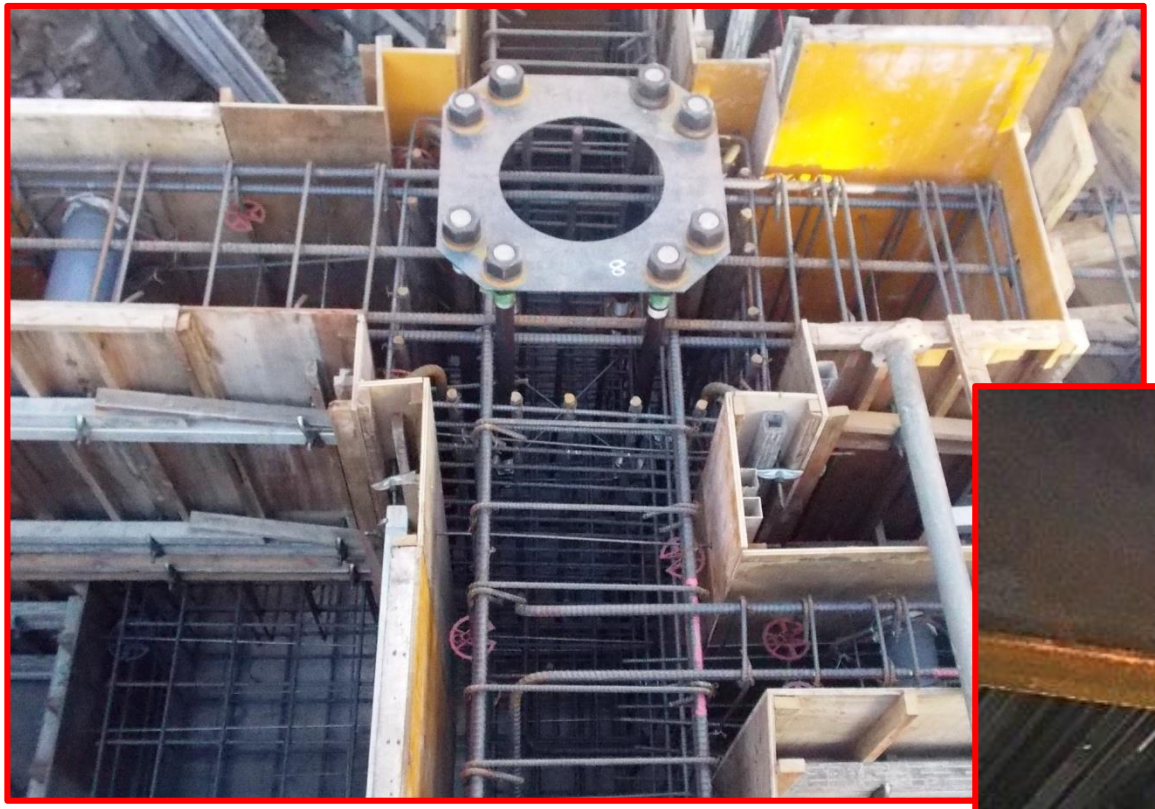
梁のふかしに注意
ふかし幅によっては補強が必要となる
左、かぶり不足で通りを治す必要あり

Ⅴ　参考写真



鉄骨ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄのｾｯﾄ状況
既製品のように見える

Ⅴ　参考写真



鉄骨梁のスリーブ施工状況
既成品による補強

鉄骨ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの状況

Ⅵ　工事監理報告書　記載例

ＲＣ建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
敷地の形状、高さ、衛生及び安全	道路	・道路幅員、接道長	配置図	無し	・計測を行い確認	適
	敷地	・敷地形状、寸法、高低差	配置図等	〃	・工事着手時、完成時に確認 ・計測機器で計測確認	〃
	敷地の安全	・法面の状況 ・がけの状況 ・既設擁壁H○○○の安全	配置、敷地の断面図等	〃	・現地で目視確認 ・滑り、倒れ、割れ等なし	〃 〃
	建築物等の配置	・敷地境界線、道路境界線からの離れ、真北寸法の離れ	配置図等	〃	・遣り方時、完成時に確認 ・計測機器で計測確認	〃
	支持地盤	・支持層の確認 種類（　○○○層　）	構造詳細図等	〃	・地質調査データと掘削土の照合（掘削底盤を確認）	〃
		・地耐力	地質調査書	〃	・令93条照合	〃
	仮囲い	・敷地周囲万能鋼板H1.8m設置	特記仕様書、配置図等	〃	・現地確認	〃
	落下物防護	・落下防止ﾈｯﾄ			〃	〃
主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる**材料**（接合材料を含む。）**の種類、品質、形状及び寸法**	杭	・場所打ち杭　l=15m～20m ｱｰｽﾄﾞﾚﾙ1m～1.6mφ	仕様書 構造関係図	無し	・杭径、長さ、鉄筋の径、品質、ｺﾝｸﾘｰﾄの品質を確認	適
	コンクリート （サンプルは打設毎に6本採取、現場水中養生と標準養生を実施。）	・材料・種類・規格・品質 ・形状・寸法・仕上げ ・四週圧縮強度、アルカリ骨材反応、塩化物総量	構造図等 〃 〃	〃 〃 〃	・配合計画書による書類審査、受入時の検査で確認 ・コン打設時に確認、圧縮試験立会及び報告書確認	〃 〃
	鉄筋	・材料・種類・規格・形状 品質・寸法	〃	〃	・ﾐﾙｼｰﾄによる書類審査、受入時の検査及び工程終了時にﾛｰﾙﾏｰｸを現場で照合	〃
	屋根材	・材料・寸法・形状等	矩形図等	〃 〃	・受入時の検査及び工程終了時に現場で照合	〃
	外壁材	・材料・寸法・形状等	矩形図等	〃	・　〃	〃

中間検査時のみ記載となる。

Ⅵ　工事監理報告書　記載例

ＲＣ建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
主要構造部及び主要 構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料の**接合状況、接合部分の形状等**	杭	・場所打ちｱｰｽﾄﾞﾘﾙ杭 杭の本数、杭頭処理	仕様書 構造関係図	無し	・支持層の深さ、杭径、長さ、芯ｽﾞﾚ、止り高さを確認	〃
	基礎	・位置、形状、寸法	構造関係図	〃	・工程終了時に現場で確認	〃
	柱、梁、地中梁 小梁、片持梁、スラブ	・主筋、剪断補強筋の本数、配置、ピッチ	構造関係図	〃	・　〃	〃
	各部鉄筋の圧接状況 （圧接ロット毎に抽出して検査）	・接合状況	構造図等	〃	・超音波深傷結果報告書の確認、圧接形状等の現地確認	〃
	鉄筋の接合状況	・重ね長さ、定着状況	〃	〃	・工程終了時に現場で確認	〃
	貫通部の補強状況	・梁床貫通部補強	〃	〃	・　〃	〃
	構造スリットの状況	・スリットの位置、構造	〃	〃	・　〃	〃
建築物の各部分の**位置、形状及び大きさ**	建築物全体 基礎 柱 梁 壁・耐震壁 床、屋根 廊下、階段 屋根	・平面、立面、断面形状 ・位置・形状・寸法 大きさ	配置平面図等 意匠図 構造図	無し 〃	・工事完了時に現場で確認 ・工程終了時に現場で確認	〃 〃
構造耐力上主要な部分の防錆、防腐及び防蟻措置及び状況						
特定天井に用いる材料の種類並びに当該特定天井の構造及び施工状況						

該当なし

Ⅵ　工事監理報告書　記載例

ＲＣ建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
居室の内装の**仕上げ**に用いる**建築材料の種別**及び当該建築材料を用いる部分の**面積**	内装仕上げ材 内部建具 各種設備機器	仕上げ材の種類 仕上げ材の状況 〃	平面図、仕上表等 〃 〃	無し 〃 〃	・工事完了時に現場で確認 ・　〃 ・　〃	適 〃 〃
天井及び壁の室内に 面する部分に係る**仕上げの材料の種別及び厚さ**	各室、火気使用室の天井及び壁並びに床	・仕上げ材の種類 ・仕上げの状況	平面図、仕上表等	無し 〃	・工程終了時に現場で確認 ・　〃	適 〃
開口部に設ける建具 の種類及び大きさ	外部開口部 防火区画に用いる各種防火戸 延焼の恐れのある開口部	・寸法・形状、性能 ・寸法・形状、性能 ・寸法・形状、性能	平面図、立面図等 建具表、法規ﾁｪｯｸ図等 法規ﾁｪｯｸ図等	無し 〃 無し	・工程終了時に現場で確認 ・工程終了時に現場で確認 ・工程終了時に現場で確認	適 〃 〃
建築設備に用いる**材料の種類**及びその照合した内容並びに当該建築**設備の構造及び施工状況**（**区画貫通部の処理状況**を含む。）	各種配管・配線 給水排水設備 電気設備	・種類・形状・寸法 設置状況 ・種類・形状・寸法 設置状況 ・種類・形状・寸法 設置状況	平面図設備図等 平面図、機械設備図等 平面図電気設備図等	無し 〃 〃	・受入時の製品の確認及び取付時に現場で確認 ・　〃 ・　〃	適 〃 〃
	非常用照明設備	・設置状況、明るさ	電気設備図	〃	・完了時に確認、照度測定	〃

Ⅵ　工事監理報告書　記載例

ＲＣ建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
	防火区画等を貫通する電線、ﾀﾞｸﾄ、各種配管の耐火処理、ﾀﾞﾝﾊﾟｰの状況	・種類・形状・寸法 設置状況	電気設備図、機械設備図等	〃	・工程終了時に現場で確認	〃
寝室等の住宅用防災機器	火災警報器	・種類・形状・寸法 ・設置状況	平面図等	無し	・受入時の製品の確認 ・取付時に現場で確認	適 〃
備　　考	耐火構造の確認 防火区画の確認 １１４条区画の確認 排煙設備の確認 界壁の確認 界床の確認	・位置、形状、仕様	法規ﾁｪｯｸ図等	無し	・工程終了時に現場で確認	適

Ｆ．工事監理報告書　記載例

鉄骨造建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
敷地の形状、高さ、衛生及び安全	道路	・道路幅員、接道長	配置図	無し	・計測を行い確認	適
	敷地	・敷地形状、寸法、高低差	配置図等	〃	・工事着手時、完成時に確認 ・計測機器で計測確認	適
	敷地の安全	・法面の状況 ・がけの状況 ・既設擁壁H○○○の安全	配置、敷地の断面図等	〃	・現地で目視確認 ・滑り、倒れ、割れ等なし	適 適
	建築物等の配置	・敷地境界線、道路境界線からの離れ、真北寸法の離れ	配置図等	〃	・遣り方時、完成時に確認 ・計測機器で計測確認	適
	支持地盤	支持層の確認 種類（　○○○層　） 地耐力	構造詳細図等 地質調査書	〃 〃	・地質調査データと掘削土の照合（掘削底盤を確認） ・令93条照合	適 適
	仮囲い	・敷地周囲万能鋼板H1.8m設置	特記仕様書、配置図等	〃	・現地確認	適
	落下物防護	・落下防止ﾈｯﾄ			〃	適
主要構造部及び主要構造部以外の構造耐 力上主要な部分に用いる**材料**（接合材料を含む。）**の種類、品質、形状及び寸法**	杭	・場所打ち杭　l=15m～20m ｱｰｽﾄﾞﾚﾙ1m～1.6mφ	仕様書 構造関係図	無し	・杭径、長さ、鉄筋の径、品質、ｺﾝｸﾘｰﾄの品質を確認	適
	コンクリート（サンプルは打設毎に6本採取、現場水中養生と標準養生を実施。）	・材料・種類・規格・品質 ・形状・寸法・仕上げ ・四週圧縮強度、アルカリ骨材反応、塩化物総量	構造図等 〃 〃	〃 〃 〃	・配合計画書による書類審査、受入時の検査で確認 ・コン打設時に確認、圧縮試験立会及び報告書確認	適 適 適
	鉄筋	・材料・種類・規格・形状 品質・寸法	〃	〃	・ﾐﾙｼｰﾄによる書類審査、受入時の検査、工程終了時に確認	適
	鋼材等、プレート類、溶接材料、ボルト類 床デッキ、ﾌﾞﾚｰｽ等	・材料・種類・規格・形状 品質・寸法	〃	〃	・ﾐﾙｼｰﾄによる書類審査、工場検査 受入時の検査	適
	屋根材	・材料・寸法・形状等	矩形図等	〃 〃	・受入時の検査及び工程終了時に現場で照合	適
	外壁材	・材料・寸法・形状等	矩形図等	〃	・　〃	適

中間検査時のみ記載となる。

Ⅵ　工事監理報告書　記載例

鉄骨造建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
主要構造部及び主要構造部以外の構造耐力上主要な部分に用いる材料の**接合状況、接合部分の形状等**	杭	・場所打ちｱｰｽﾄﾞﾘﾙ杭 杭の本数、杭頭処理	仕様書 構造関係図	無し	・支持層の深さ、杭径、長さ、芯ｽﾞﾚ、止り高さを確認	適
	基礎	・位置、形状、寸法	構造関係図	〃	・工程終了時に現場で確認	適
	柱、梁、地中梁 小梁、1階スラブ	・主筋、剪断補強筋の本数、配置、ピッチ	構造関係図	〃	・　〃	適
	各部鉄筋の圧接状況 （圧接ロット毎に抽出して検査）	・接合状況	構造図等	〃	・超音波深傷結果報告書の確認、圧接形状等の現地確認	適
	鉄筋の接合状況	・重ね長さ、定着状況	〃	〃	・工程終了時に現場で確認	適
	貫通部の補強状況	・基礎梁床貫通部補強	〃	〃	・　〃	適
	鉄骨の溶接状況	・柱と梁、柱と柱、床ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ等	仕様書	〃	・工程終了時に工場で確認 及び超音波深傷結果報告書の確認	適
	鉄骨梁貫通の補強状況	・既製品による補強	〃	〃	・工程終了時に工場、現場で確認	適
	鉄骨の接合状況	・柱と基礎、柱と梁、床材等	構造関係図	〃	・　〃	適
		・水平ﾌﾞﾚｰｽ、壁ﾌﾞﾚｰｽ	〃	〃	・　〃	適
	鉄骨の建て方状況	・建て入れ精度の確認	構造関係図	〃	・　〃	適
建築物の各部分の**位置、形状及び大きさ**	建築物全体 基礎 柱 梁	・平面、立面、断面形状	配置平面図等	無し	・工事完了時に現場で確認	適
	壁・耐震壁 床、屋根 廊下、階段 屋根	・位置・形状・寸法 大きさ	意匠図 構造図	〃	・工程終了時に現場で確認	適

Ｆ．工事監理報告書　記載例

鉄骨造建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
構造耐力上主要な部分の防錆、防腐及び防蟻措置及び状況	鉄骨柱、梁、斜材	・防錆処理状況	仕様書	無し	・工場出荷時に確認	無
特定天井に用いる材料の種類並びに当該特定天井の構造及び施工状況						
居室の内装の**仕上げ**に用いる**建築材料の種別**及び当該建築材料を用いる部分の**面積**	内装仕上げ材 内部建具 各種設備機器	仕上げ材の種類 仕上げ材の状況 〃	平面図、仕上表等 〃	無し 〃 〃	・工事完了時に現場で確認 ・　〃 ・　〃	適 適 適
天井及び壁の室内に 面する部分に係る**仕上げの材料の種別及び厚さ**	各室、火気使用室の天井及び壁並びに床	・仕上げ材の種類 ・仕上げの状況	平面図、仕上表等	無し 〃	・工程終了時に現場で確認 ・　〃	適 適
開口部に設ける建具 の種類及び大きさ	外部開口部 防火区画に用いる各種防火戸 延焼の恐れのある開口部	・寸法・形状、性能 ・寸法・形状、性能 ・寸法・形状、性能	平面図、立面図等 建具表、法規ﾁｪｯｸ図等 法規ﾁｪｯｸ図等	無し 〃 〃	・工程終了時に現場で確認 ・工程終了時に現場で確認 ・工程終了時に現場で確認	適 適 適
建築設備に用いる**材料の種類**及びその照合した内容並びに当該建築**設備の構造及び施工状況**（**区画貫通部の処理状況**を含む。）	各種配管・配線 給水排水設備 電気設備	・種類・形状・寸法 設置状況 ・種類・形状・寸法 設置状況 ・種類・形状・寸法 設置状況	平面図設備図等 平面図、機械設備図等 平面図電気設備図等	無し 〃 〃	・受入時の製品の確認及び取付時に現場で確認 ・　〃 ・　〃	適 適 適

Ｆ．工事監理報告書　記載例

鉄骨造建築物の場合

工事監理の状況

	確認を行った部位、材料の種類等	照合内容	照合を行った設計図書	設計図書の内容について設計者に確認した事項	照合方法	照合結果（不適の場合に は建築主に対して行った報告の内容）
	非常用照明設備	・設置状況、明るさ	電気設備図	〃	・完了時に確認、照度測定	適
	防火区画等を貫通する電線、ﾀﾞｸﾄ、各種配管の耐火処理、ﾀﾞﾝﾊﾟｰの状況	・種類・形状・寸法 設置状況	電気設備図、機械設備図等	〃	・工程終了時に現場で確認	適
寝室等の住宅用防災機器	火災警報器	・種類・形状・寸法 ・設置状況	平面図等	〃	・受入時の製品の確認 ・取付時に現場で確認	適 適
備　　考	耐火構造の確認 防火区画の確認 １１４条区画の確認 排煙設備の確認 界壁の確認 界床の確認	・位置、形状、仕様	法規ﾁｪｯｸ図等	〃	・工程終了時に現場で確認	適

これでRC造、鉄骨造については終了です。

続いてと木造軸組工法、枠組壁工法について説明致します。

もう少しで終了となります。